

初代&2代館長



2代館長の井上浩氏

◆情報の発信地

●山田 公民館でサツマイモの行事を行っていた時、マスコミ等から問い合わせが多く、井上先生の発案で川越にはサツマイモの情報発信地を作らないといけないと思った。川越市には博物館の建設計画があったが、サツマイモには関心がなく、「いも膳」の誘いもあって役所をやめてサツマイモに命をかけてやろうという気持ちだった。

発信能力、宣伝効果は非常に大きく、当時は、芋菓子というと、芋煎餅、芋納糖、芋松葉くらいしかな

かったが、急に多種類の芋菓子ができるようになり、

観光化の進む中で、その経済効果は計り知れないものがあつたと思う。川越市は「侍の文化」という意識があつたせいか、パンフにしても全て自費で作成、協力は全くなかつた。

◆話の聞き役

●井上 来館する人はみんなサツマイモが好きで、そうした人たちのイモに対する思い入れを聞くのが、ここでの僕の仕事だった。商売してる人や、イモが好きなきな主婦や、戦争中、命を救ってくれた恩人だという

38歳で川越市役所を退職し、初代館長に就かれた山田英次氏。現在は、サイポクハムの企画室長で「川越いも友の会」の事務局長をされている。

高校の社会科の先生をしていた2代目館長の井上浩氏。退館後は、子供達にわかりやすいサツマイモの本を書きたいと語る。

◎食料危機

サツマイモの時代